

[きたがわ 剛司]

北川たかし

府政活動レポート 特別号 2017.06

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木上谷浦19-1

マンション竹長1F(有)竹長内

TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

✉ office@kitagawatakashi.net

🌐 http://www.kitagawatakashi.net



これからどうなる？

京田辺・井手・宇治田原



教育

Education



京都市「効果のある学校」

新しい学習指導要領の実施にむけて、小学校の英語授業や、アクティブ・ラーニング視点での授業改善などの、新たな改革課題に対応しつつ教育が充実するよう、市町村教育委員会と連携し積極的に取り組みます。

今

現状

- 平成29年当初予算:総額1,278億1,800万円計上
- 英語教育においては、教員の英語力の強化
- 学力格差が生じないように、市町村教育委員会と連携

これから

今後の課題

- ✓ 教育面における子どもの貧困対策の推進
- ✓ いじめ問題解消への取り組み
- ✓ 教職員の長時間勤務の状況改善
- ✓ 教員の能力向上

井手町に特別支援学校が開校予定

平成32年4月を目標に、井手町に開校予定の特別支援学校は、小学部・中学部・高等部が設置され、知的障がい、肢体不自由の児童・生徒約200人の受け入れを想定しています。

今

現状

- 平成28年度:校舎基本設計、埋蔵文化財調査を実施
- 平成29年度:造成工事、校舎実施設計

これから

今後の課題

- ✓ 対象者が増加傾向にある中、収容人数200名程度が妥当なのかを検証
- ✓ 教員の確保

鉄道

Railway line



北陸新幹線の新駅が松井山手付近に

北陸新幹線は、新幹線ネットワークと関西の都市鉄道網の結節点(ハブ)で、現在、松井山手付近に駅を作るルートが発表されています。

今

現状

- 駅・ルートの公表に向けた国の調査の進捗を踏まえ、府域の課題や経済効果を検証
- メリットに対する費用負担のあり方について協議を行う



これから

今後の課題

- ✓ 新幹線の松井山手駅の開設負担額の明確化
- ✓ 整備にかかる地方負担と財源確保

山城多賀駅～玉水駅間が複線化へ

JR奈良線は2001年3月に「京都駅～JR藤森駅」間および「宇治駅～新田駅」間の複線化が完成しました。続く第二期事業として、「JR藤森駅～宇治駅」間、「新田駅～城陽駅」間、「山城多賀駅～玉水駅」間が2022年度を目標に複線化される予定です。

今

現状

- 複線化2期事業の起工記念式典が2016年7月に行われた
- 一部事業を着工中
- 全体事業費369億円(予定)



これから

今後の課題

- ✓ 第一期事業はJR西日本の負担額が50%だったのに対し、第二期事業ではJR西日本の負担額が25%で、残りの区間の負担額交渉が課題
- ✓ 北陸新幹線の延伸効果を高めるために、残りの区間の複線化の推進が必要

道路

Road system



国道307号線の渋滞・通行止め解消へ

国道307号線は、滋賀県彦根市から宇治田原町を經由して大阪府枚方市までをつなぐ幹線道路で、第二京阪道路や京奈和自動車道と接する、京都府南部の重要な東西軸であり、第2次緊急輸送道路（地震発生時の主要な防災拠点との連絡道路）としての役割を担っています。

今

現状

- 307号線は、平成25年の台風18号で土砂崩れが発生して全面通行止めになり、交通マヒが発生した。現在も交通渋滞が度々発生している
- 宇治田原山手線の路線測量中で、事業費として1,000万円計上している



これから

今後の課題

- ✓ 早急にバイパスを完成させ道路網を形成する必要がある
- ✓ 平成35年度を開通目標としているが、奥山田バイパス事業の早期開通を目指す

府道宇治木屋線にトンネルを

宇治木屋線の犬打峠をトンネル化することで、安全・スムーズな走行かつ高速道路へのアクセス向上により、地域産業の振興や交流人口（集客力）の拡大に役立ちます。

今

現状

- 測量・道路計画中で、事業費として平成29年度に初めて2,000万円が計上された



これから

今後の課題

- ✓ トンネル工事の予算確保
- ✓ 井手町、宇治田原町、和束町を周遊できるルートを整備し、観光政策の企画が急がれる

福祉

welfare



子ども支援、子育て応援

子どもの貧困対策、引きこもり対策、障がい者など立場の弱い人たちの可能性を高める施策を実施します。

今

現状

- 子供貧困対策支援の拠点「こどもの城」の開設
- 引きこもり対策として、引きこもり総合支援（専門相談、チーム絆、ポータルサイト、職親制度）を実施
- 立場の弱い人たちへの「共生社会実現」予算を編成し、16の重点事業を展開
- 運営支援に1億5000万円の予算を計上

これから

今後の課題

- ✓ 子育てサポートの相談窓口の一元化
- ✓ 保育人材の確保・定着に向けた取り組み強化
- ✓ こどもの貧困対策支援の具体化（居場所づくり、学習支援、生活支援など）

高齢者が安心できる暮らし

高齢者安心社会実現事業として、高齢者の地域拠点創設と在宅医療の強化を行います。また、あんしん医療強化事業として、医科大附属病院の機能強化と、医療体制の充実を行います。

今

現状

- 高齢者安心社会実現事業費として7億円規模の予算計上
- 在宅医療を行う上で必要な地域ネットワークの整備を行っている
- 一人暮らしの高齢者は39,628世帯で、そのうち半数が福祉団体などで、見守りが行われている

これから

今後の課題

- ✓ 健康寿命を延ばす医療・介護・予防・生活支援・暮らしを一体的に支援する仕組みづくり
- ✓ 一人暮らしの高齢者へのサポート

治山治水

Erosion and flood control



京田辺市 府所有土地活用

学研都市の精華・西木津地区や木津中央地区などには、既に133の企業や研究施設が立地し、造成済み用地はほとんど残っておらず、企業や研究機関の立地ニーズに応えるためには南田辺・狛田地区の開発が必要です。府が所有する、南田辺の山林(60ヘクタール)の活用が期待されます。

今

現状

- 府は企業の研究開発拠点用地にする方針で、本年度一般会計当初予算に開発調査費750万円を盛り込んでいる



これから

今後の
課題

- ✓ 先端技術を開発、活用するなど、将来性の高い企業の誘致
- ✓ 開発される地域への交通手段の確保

河川の水害対策

安心・安全な暮らしを支える治水対策について、流域特性や土地利用計画を踏まえ、自然環境にも配慮しつつ計画的に推進します。台風被災からの早期復旧、再度災害防止(復旧だけでは被災が繰り返されるような場合の改善・予防)の緊急事業、防災情報・体制の強化など、ハード・ソフト一体となった治水対策をよりいっそう推進します。

今

現状

- 普賢寺川の改修を着手中
- 防賀川広域河川改修事業を着手中



これから

今後の
課題

- ✓ 京田辺市、井手町、宇治田原町には改修が必要な河川が多くあるため、府の予算の確保